

# ルワンダ大使熱弁

## 中区 学生らと対話集会



若者にルワンダと広島についての思いを話す大使

12年前にルワンダで大虐殺が始まった7日、エミール・ルワマシラボ同国駐日大使と広島の学生らの「対話集会」がアフリカのために、広島のユースができる

「ピースビルダーズ・カンパニー主催」が、広島市中区の市まちづくり市民交流プラザであった。前日、広島平和記念資料館などを訪問した大使は

「広島の人々は『広島を平和都市に』というビジョンでやってきた。我々にも同様のビジョンがある」と語る一方で、「誰が誰を殺したかが分かっているルワンダでは、憎しみを乗り越える困難が多い」とした。また、大使は「発展した日本と途上にあるアフリカの違いはどこにあるのか」と質問。若者からは「教育の違いでは」などの声があった。大使は「植民地政策による民族分断のため、アフリカ諸国では『国家』という意識が育っていないことが原因ではないか」との意見を示し、インターネ

ットを通じたルワンダの若者との交流を呼びかけた。ルワンダ大虐殺を描いた映画「ホテル・ルワンダ」は15日～5月12日、広島市3年生古川会梨さん(20)は「新しい視点を得られ、ルワンダのことをもっと知りマ」で上映される。

「ルワンダ大虐殺を描いた映画「ホテル・ルワンダ」は15日～5月12日、広島市中区大手町の「サロンシネマ」で上映される。